

平成 24 年 5 月 10 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉 井 信 光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：取締役 執行役員 経営管理部長
鷲 本 晴 吾
電 話 番 号 : (0 3) 5 7 3 3 - 2 1 2 1

第 2 四半期連結累計期間業績と前年同期実績との差異に関するお知らせ

当社は、平成 24 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）における業績につき、業績予想をしておりませんので、前年同期との対比について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成24年 9 月期第 2 四半期連結累計期間（平成23年10月 1 日～平成24年 3 月31日）業績と前年同期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前年同期実績 (A)	4,977	1,791	1,757	1,835	1,518.92
今回発表業績 (B)	1,451	△164	△138	△462	△387.91
増減額 (B-A)	△3,525	△1,955	△1,896	△2,297	—
増減率 (%)	△70.8	—	—	—	—

2. 差異の理由

【売上高】

財務アドバイザー（FA）業務、アセットマネジメント（AM）業務の継続案件で一定の安定的収益を確保しつつ、前期実行の不動産投資案件の回収、FinTech Gimv Fund, L.P. (FGF) での投資先の創薬ベンチャー企業の株式売却益 320 百万円により、収益を計上しました。しかしながら大型のファイナンスアレンジ、AMの獲得に至らず、当社の投資先については企業価値向上に注力し、エグジットについては検討段階であったため、収益計上は限定的なものとなりました。

ヘッジファンド運用においては、グローバルマクロ運用の運用成績低迷、及びベンチャー投資運用の投資先企業がエグジットしなかったことにより成功報酬収益計上に至らず、また平成 23 年 11 月より提供を開始した投資運用戦略（イベント・ドリブン戦略）についても、AIJ 問題の影響で年金基金等による新規の運用委託は様子見となり資産運用残高の積増しのペースは第 2 四半期末にかけ鈍化いたしました。

公共財関連事業においては、総務省研究会の答申待ちの地方自治体が多く、契約件数が伸び悩みましたが、地方自治体以外において官庁会計を利用するマーケットの開拓により契約が増加しました。

連結している投資先企業においては、(株)ベルスが計画値を上回る業績で好調を維持しました

が、Crane Reinsurance Limitedは、出再元の都合により第1、第2四半期に対応する勘定書の交付が遅れていることから、売上の計上にはいたりませんでした。

これらの結果、売上高は1,451百万円（前年同期比70.8%減）となりました。なお、前第2四半期連結累計期間においては、担保不動産の売却により売上高32.1億円及びこれに係る費用を計上しております。

【営業利益、経常利益】

売上原価は不動産投資案件の原価計上等の影響により641百万円（前年同期は2,119百万円）となり、販売費及び一般管理費は支払手数料の削減等により974百万円（前年同期は1,066百万円）となった結果、営業損失は164百万円（前年同期は1,791百万円の営業利益）、経常損失は138百万円（前年同期は1,757百万円の経常利益）となりました。

【四半期純利益】

FGIキャピタル・パートナーズ(株)に係るのれん償却額126百万円を特別損失に計上するとともに、主にFGFの収益に係る少数株主利益155百万円を計上したことで、四半期純損失は462百万円（前年同期は1,835百万円の四半期純利益）となりました。

以 上